

事項	冬季遅くまで落葉しないりんご葉ではキンモンホソガの越冬生存率が高い		
ねらい	キンモンホソガは落葉した寄生葉の中で、蛹の状態越冬する。積雪地では落葉が雪の下となるため、雪の圧力により蛹が死亡したり、落葉同士が密着して成虫が正常に羽化できないものが多い。しかし、りんご葉が遅くまで樹上に残る異常年であった平成17～18年の冬季に、落葉しない寄生葉で越冬するキンモンホソガ蛹の生存率を調べたところ、通常の越冬場所である落葉中よりも高いことが明らかになったので、参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 冬季遅くまで樹上にりんご葉が残るような異常年には、樹上の寄生葉で越冬するキンモンホソガの蛹は積雪の影響を受けないため、落葉で越冬する蛹に比較して生存率が高い。</p> <p>2 前年の秋季に被害が多かった園地で、冬季遅くまでりんご葉が落葉しない場合には、翌春の発生密度が高いことが予想される。</p>		
期待される効果	冬季遅くまでキンモンホソガの被害葉が樹上に残っているような異常年には、翌年の初期発生密度が高くなることが予測でき、適切な防除対策を講じることができる。		
利用上の注意事項			
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センターりんご試験場 病虫肥料部 (石栗陽一、櫛田俊明、雪田金助)	対象地域	県下全域
発表文献等	第51回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨 平成18年度青森県農林総合研究センターりんご試験場試験研究成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 樹上葉及び落葉におけるキンモンホソガ蛹の生存率 (平成18年 青森農林総研りんご試)

	被害葉採集日			
	1月17日	2月24日	3月22日	
被害葉の採集位置	樹上	樹上	樹上	地表
調査蛹数	246	311	251	95
生存	222 (90.2%)	279 (89.7%)	195 (77.7%)	23 (24.2%)
積雪による圧死	—	—	—	42 (44.2%)
その他要因による死亡虫	24 (9.8%)	32 (10.3%)	56 (22.3%)	30 (31.6%)

(注) りんご試験場 (黒石市牡丹平) C3-1号ほで調査。



写真1 遅くまで落葉しない園地
(平成18年3月11日撮影)



写真2 融雪後の落葉の状態
(平成18年4月11日撮影)



写真3 正常な状態のキンモンホソガ蛹



写真4 積雪で圧死したキンモンホソガ蛹